

防

災

保存版
2020年版

ハザードマップ

— 今すぐ始めよう防災対策 —

使い方ガイドブック

色麻町

防災ハザードマップについて

防災ハザードマップは、洪水や土砂災害のおそれのある区域や避難場所などのほか、想定される災害の種類や様々な防災関連情報の入手方法、避難の心得など、災害から身を守るために必要な情報を掲載した資料です。

普段から自宅周辺の浸水想定区域(範囲と浸水の深さ)、土砂災害のおそれのある区域(土砂災害警戒区域、特別警戒区域)、避難場所等を確認しましょう。

また、家族で話し合い、防災ハザードマップ表紙の「自宅周辺の危険箇所」や、いざという時の「避難場所」、「連絡先」、最終見開き面の「非常持出品・備蓄品」欄を準備・確認し、また定期的に見直しをかけて、万一の災害に備えましょう。

◆防災ハザードマップの構成について◆

防災ハザードマップは、次の構成となっています。

1. 災害を知る P.1~2

大雨により発生する可能性がある災害の種類やその発生機構、災害の予兆などを紹介しています。

自宅周辺の状況やテレビ、インターネットで得られる情報などをもとに、災害発生のおそれが高まっている場合は、**自ら判断し、早めの避難を心がけましょう。**

2. 大雨時に取るべき行動を考える P.3~6

【避難行動の目安】

令和元年6月以降、自治体や気象庁等から発表される防災情報を用いて、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されることとなりました。

防災ハザードマップ P.4 に示す「防災情報警戒レベル」の表を参照し、**警戒レベル3の段階で高齢者等の避難に時間を要する方は避難を開始**(その他の方も避難の準備を開始)し、**警戒レベル4の段階では全員避難を開始**しましょう。

なお、「避難準備・高齢者等避難開始」など、町が発令する避難情報に先立ち、気象庁や宮城県などが「警戒レベル相当情報」として警戒レベル3以上に相当する情報をお知らせすることがあります。P.4「情報の入手先」に示す関係機関が提供する防災情報も確認して、自ら避難の判断をしてください。

【避難行動について】

避難は、災害が発生する前に安全な場所へ移動する「立退き避難」のほか、浸水深が小さい地域では自宅の2階など安全が確保できる場所で待機するなどの「屋内安全確保」があります。

ただし、堤防決壊等に伴う氾濫流や河岸侵食の発生するおそれがある地域、浸水深が3m以上（建物2階も浸水）となる地域では、そこにとどまることで被害にあう危険性があるため、**災害が発生する以前の早い段階で立退き避難を行うことが必要**です。

また、避難行動中にもさまざまな危険が隠れています。P.5の「避難の心得」で避難の際の注意点などを確認しましょう。

【避難所等について】

町では、22箇所の避難所と4箇所の福祉避難所^{※1}を指定しています。避難所は、災害の種類ごとに利用可否が設定されていますので、あらかじめ確認し、いざという時の避難先を決めておきましょう。

なお、ここに掲載している避難所等にしか逃げてはならないということではありません。行政区で設定する一時避難場所なども含め、自身の命が助かることを最優先に考え、避難を行ってください。

※1…福祉避難所は、身体が不自由な人など、介護の必要性がある方を受け入れることができる施設ですが、通常の避難所で対応できない場合に町から福祉避難所へ相談のうえ移動を検討することから、緊急時を除き、福祉避難所へ直接避難しないでください。

【防災ハザードマップについて】

P.7以降に掲載する「洪水土砂災害ハザードマップ」及び「ため池ハザードマップ」には、次の情報を掲載しています。

＜洪水浸水想定区域＞

- ・ 防災ハザードマップには、想定しうる最大規模（おおむね1000年程度以上に1回の規模）の降雨により、鳴瀬川水系の河川が氾濫した場合に想定される浸水の区域と深さをシミュレーションにより予測した結果を示しています。各河川の設定条件はP.6に示す通りです。

- ・ シミュレーションは、想定する降雨があった場合に、河川の両岸に100～200m程度の間隔で破堤地点（決壊地点）を設定し、決壊の有無を判定したうえで、それぞれの点で計算される浸水想定区域を重ね合わせたものです。
- ・ 支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、内水による氾濫等は考慮されていないため、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があるので注意してください。

<土砂災害警戒区域等>

- ・ 防災ハザードマップには、宮城県が指定した土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域のうち、色麻町内の区域を掲載しています。
- ・ 宮城県土木部総合情報システム（P.4情報の入手先 参照）なども参考に、土砂災害のおそれがある場合は早めに避難しましょう。

<ため池浸水想定区域>

- ・ 平成30年の西日本豪雨では多くのため池が決壊し、大きな被害が発生しました。これを受け宮城県では、住宅や公共施設などに近く、自然災害で決壊した場合に人的被害が出るおそれがあるため池について、避難対策や補強などの優先的な整備が必要な防災重点ため池^{※2}とし、それを対象に浸水想定区域の設定を行っています。
- ・ 防災ハザードマップには、宮城県が選定した防災重点ため池（除ため池、馬古沢ため池）が決壊した場合に想定される浸水の区域と深さをシミュレーションにより予測した結果を示しています。
- ・ 大雨の際には、河川氾濫による浸水のほか、ため池の決壊による浸水が発生する場合がありますので、防災ハザードマップを確認し、ため池浸水想定区域内にお住いの方は、早めの避難を心がけてください。

※2…防災重点ため池の選定基準（農林水産省 参考資料より抜粋）

防災重点ため池の選定基準： 決壊した場合の浸水区域（以下「浸水区域」という）に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池

なお、浸水区域については、貯水量と地形から推定することとし、これにより難しい場合は、氾濫解析をもとに浸水想定区域図を作成し、判定するものとする。

- 「人的被害を与えるおそれ」に
 関する具体的な基準
- ①ため池から100m未満の浸水区域内に家屋、公共施設等があるもの
 - ②ため池から100～500mの浸水区域内に家屋、公共施設等があり、かつ貯水量1,000m³以上のもの
 - ③ため池から500m以上の浸水区域内に家屋、公共施設等があり、かつ貯水量5,000m³以上のもの
 - ④地形条件、家屋等との位置関係、維持管理の状況等から都道府県及び市町村が必要と認めるもの

3. 洪水土砂災害ハザードマップ P.7~24

- ・洪水土砂災害ハザードマップには、次の情報を掲載しています。

【ハザード情報】

(1) 洪水浸水想定区域



早期立退き避難が必要な区域

氾濫流や河岸侵食により家屋倒壊が発生するおそれがある区域、想定浸水深が3m以上の区域は、そこにとどまることにより被害を受ける危険性が高いため、災害発生前の早い段階で、区域外に立退き避難することが必要です。

(2) ため池浸水想定区域



ため池浸水想定区域

ため池浸水想定区域は、P23,24 に掲載

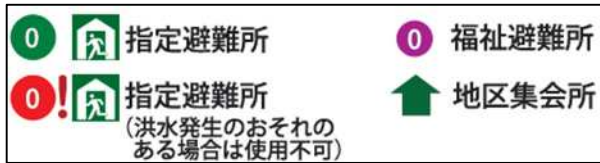
(3) 土砂災害警戒区域等



土砂災害警戒区域等

町内で指定されている土砂災害警戒区域（土石流7箇所、急傾斜地の崩壊9箇所、地滑り3箇所）を掲載

(4) 避難所等



避難所等

浸水想定区域内に位置する避難所等は、洪水発生時の使用可否で記号を変えています。

(階層により利用可能な施設はその旨を一覧に表示)

(5) その他防災関連施設等



4. 災害に備える P.25~26

- ・ 日ごろから取り組める家族や地域における防災活動(自助、共助)について、紹介しています。
- ・ 家庭では、あらかじめ自宅周辺の洪水や土砂災害の危険性(リスク)を把握しておくとともに避難先や災害時の行動について、家族で話し合い、情報を共有しておくことが大切です。また、併せて非常持出品や非常備蓄品の準備を行いましょう。
- ・ 地域では、自主防災組織の活動などに積極的に参加しましょう。
- ・ 災害時には、体が不自由な方、子供、高齢者、妊婦、外国人などは災害時の避難行動が遅れがちになるため、地域で協力し、助け合いましょう。



防災ハザードマップに関する問い合わせ先

〒981-4122

宮城県加美郡色麻町四竈字北谷地 41 番地

色麻町役場 総務課管財消防係

TEL : 0229-65-2111 (代表) FAX : 0229-65-2685